



よしだつうしん

吉田通信

第11号
【2015年8月】

〒950-1475 新潟県新潟市南区戸頭1347-1 TEL:025-372-1138 FAX:025-372-1155

■■この吉田通信は私とご縁のあった方、ご縁をいただきたい方に差し上げている月一人通信です■■

◆ゴミを拾うことも布施行◆

こんにちは！お世話になります。吉運堂の吉田竹史です。吉田通信第11号をお送りいたします。よろしく願いいたします。

さて、お寺様がよくされている法話会、私も月に何回かはその法話会でお話を聞かせていただいております。先日そのお話の中で、なるほど！と強く共感したことがありました。

それは“布施行”についてのお話です。お布施というと、どうしてもお金のイメージがありますが、自ら進んで体を動かすこともお布施だと。

具体的な説明として“学校崩壊”のお話を持ち出されました。学校崩壊というのは、いきなり起こるものではない。まず、廊下にゴミが落ちていても誰も拾わないというところから始まり、少しずつ汚れ、落書きがされても誰も消そうとしない。その後、学校の窓ガラスが割られ、そして、廊下を自転車で乗り回す子が出てくる…。ここまで来ると立派な学校崩壊ですと。

じゃあどの段階で学校崩壊を食い止めればいいのか。自転車で乗り回すことや窓ガラスを割ることを注意して食い止めるのではなく、落ちていたゴミを拾わないという初期の段階で注意して食い止めるのだと。ここが全ての始まりであって、それができないと学校崩壊は防ぎようがない。

そして、落ちていたゴミが自分の落としたゴミじゃなくても拾う。自ら進んで体を動かす。これが布施行であり、それをする事で悪い方向に進むことを防ぐことができる。そのようなお話でした。

会社として掃除に力を入れている私としては、なるほどたしかにわかりやすいと思いながら、自社に置き換え、もう一步深く考えてみました。ここからは私の意見です。

もし、その落ちていたゴミをゴミと認識していなかったらどうするか。ゴミが落ちていたのにそれが風景になってしまい、気がつかない場合はどうするか。その場合は、やはりゴミをゴミだと気づくように教育する。時間を決めて強制的に、これはゴミだから拾いましょうと指導する。そこからやって認識できて始めて、自ら拾えるようになるのかなと。当社はまだまだその段階です。ここからしっかりやっていきます。



◆発行者コラム◆

先日もまた社員の結婚式がありました。私が主賓の挨拶をし、直属の上司が乾杯の挨拶をすることになっていました。私は事前準備をしていましたが、乾杯の挨拶をする社員は準備せず「大丈夫です！なんとかなります！」と自信たっぷり。ところが、本番その社員は、緊張のあまりに言葉が出ず、結局「おめでとうございます！乾杯！！（汗）」だけで挨拶終了…。式後、私はその社員に「ちゃんと準備しろ」と、こんこんと言い聞かせることになったのでした。吉田竹史

■吉田通信を今後ご希望されない方は、大変お手数ですが090-3339-0424までご連絡をお願いいたします。■

【発行者プロフィール】

名前：吉田 竹史（よしだ たけし）
生年月日：昭和40年8月21日（O型）
出身地：新潟県白根市（現・新潟市南区）
経歴：都内の学校を卒業後、証券会社（水戸 & ニューヨーク）の4年間の勤務を経て吉運堂へ。

趣味：上手くないゴルフ、強くない将棋
（NHKの将棋対局を見ることは好きです）
家族構成：妻、娘、息子



吉田 竹史